

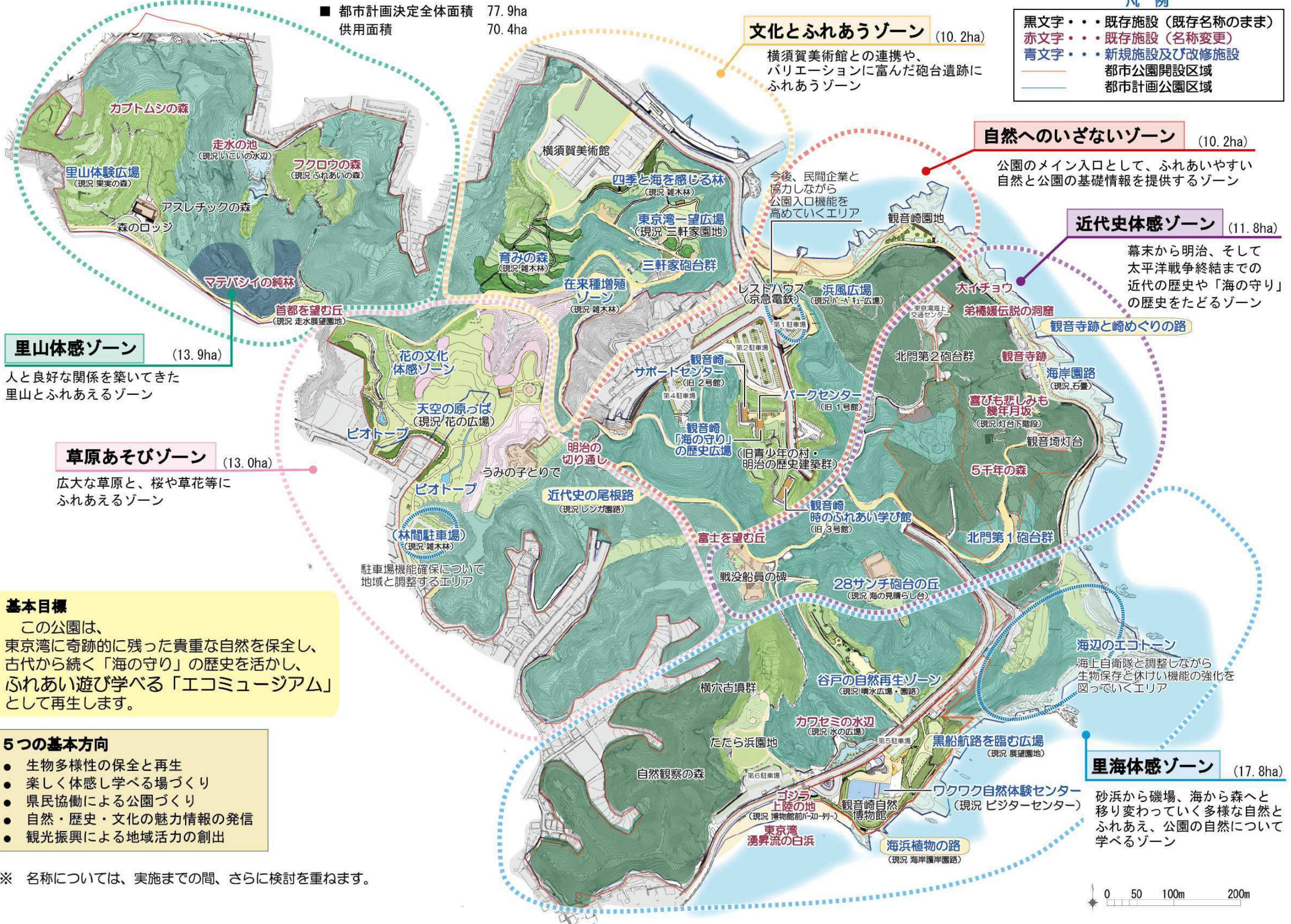
再生マスタープラン

再生計画（案）の目指す方向を利活用イメージの特性ごとに6つのゾーンに区分した「ゾーニング」をもとに、さらにゾーン内の具体の場所の利活用イメージの特性に合わせて個別のエリアと施設を定め、「県立観音崎公園再生計画（案）」の基本的な方針を示す「再生マスタープラン」を策定しました。

■ 都市計画決定全体面積 77.9ha
 供用面積 70.4ha

凡例

- 黒文字・・・既存施設（既存名称のまま）
- 赤文字・・・既存施設（名称変更）
- 青文字・・・新規施設及び改修施設
- 都市公園開設区域
- 都市計画公園区域



里山体感ゾーン (13.9ha)

人と良好な関係を築いてきた里山とふれあえるゾーン

草原あそびゾーン (13.0ha)

広大な草原と、桜や草花等にふれあえるゾーン

文化とふれあうゾーン (10.2ha)

横須賀美術館との連携や、バリエーションに富んだ砲台遺跡にふれあうゾーン

自然へのいざないゾーン (10.2ha)

公園のメイン入口として、ふれあいやすい自然と公園の基礎情報を提供するゾーン

近代史体感ゾーン (11.8ha)

幕末から明治、そして太平洋戦争終結までの近代の歴史や「海の守り」の歴史をたどるゾーン

里海体感ゾーン (17.8ha)

砂浜から磯場、海から森へと移り変わっていく多様な自然とふれあえ、公園の自然について学べるゾーン

基本目標

この公園は、東京湾に奇跡的に残った貴重な自然を保全し、古代から続く「海の守り」の歴史を活かし、ふれあい遊び学べる「エコミュージアム」として再生します。

5つの基本方向

- 生物多様性の保全と再生
- 楽しく体感し学べる場づくり
- 県民協働による公園づくり
- 自然・歴史・文化の魅力情報の発信
- 観光振興による地域活力の創出

※ 名称については、実施までの間、さらに検討を重ねます。

